

平成 27 年度学校評価について（まとめ）

1 教職員の調査から

64 名より回答があった。具体的目標・方策に対する評価は、概ね良好な結果が出ている。各校務分掌の計画に従い、全職員協力のもとに様々な施策に取り組んできた結果と見ることができる。

今後更に取り組むべき課題としては「授業に関する研究体制の充実」があげられる。特に、アクティブラーニングを中心にした生徒の主体的な授業への取組について、さらなる研究が必要である。

2 生徒対象の調査から

(1) 評価点平均の高い項目について

938 名から回答を得た。アンケート全 49 項目のうち 37 項目が平均点 3.0 を越え、多くの生徒が学校生活を充実したものと捉えていると考えることができる。また、授業についてはすべての教科で平均 3.0 を越えている。それらのうち、平均点が特に高いものは、昨年同様「日々の生活指導が、体罰によらない適切な指導だと思いますか。」(3.6)「部活動が活発であると思いますか。」(3.4)「校歌が歌えますか(1 番まで)」(3.4)であった。

(2) 評価点平均の低い項目について

平均点が 2.5 を下回っていた項目は、「図書館の利用度」(1.8)、「生徒活動に関心があるか」(2.0)「年次目標や指導方針の認知度」(2.1)、「命や人権を学ぶ機会の有無」(2.4)で、後の 2 項目は昨年度よりも評価が低くなっており、CES や LHR の時間と内容の確保について、十分な配慮が必要である。その次に「家庭学習時間の確保」(2.6)と続いている。これらの項目の評価については、今後、引き続き改善に努めていく必要がある。

(3) 年次による変化

年次ごとの詳細では、1 年次ではまだ学校や進路学習に対する意識や理解が十分ではなく、各項目で評価が低い傾向が見られ、年次が進行するとともに評価が改善される傾向がある。

3 保護者対象の調査から

779 名から回答をいただいた。全 21 項目のうち、18 項目で平均点が 3.0 を越え、高い評価をいただくことができた。中でも「本校に、お子さんを入学させてよかったと思いますか。」「本校で、お子さんは毎日楽しく学校生活を送っていると思いますか。」の評価点が高い。評価点が 3.0 を下回ったのは昨年と同様に、「保護者が PTA 活動に意欲的に参加できるための工夫(2.8)」、「学校(年次・担任)と家庭との連携(2.9)」の 2 項目と「進路実現のための学校と家庭の連携(2.9)」であった。ホームページ更新の頻度やホットメールの利用法などを含め、更なる改善のための工夫が必要である。

4 中学校対象の調査から

44 校から回答が寄せられ、本年度も本校の教育活動についてすべての項目で非常に高い評価をいただいた。ただし、「高校生らしい態度や服装等」、「ホームページの充実」、「校内の様子への公開」の 3 項目については、平均点が 3.3 と低かった。服装指導については、今後とも継続的な指導を心がけるとともに、本校の状況についてさらに積極的な情報公開を取り組みたい。

5 まとめとして

本年度のアンケートでは、生徒、保護者、近隣中学校から高い評価を得ることができたが、一方では自由記述等をとおして改善を望む声も聞くことができた。今後とも現状に満足することなく、「活力ある進学校」を目標に、更に新しいステージを目指して取り組んでいきたい。

※ アンケート評価点 4：思う 3：どちらかと言えば思う 2：どちらかと言えば思わない 1：思わない

※ 学校評価の詳細は本校のホームページをご覧ください。